

## 優秀賞

高校生部門〈自然災害〉

岩手県立大船渡高等学校2年  
紀室 杏樹

# プラットホームにて

第7回 言の葉大賞®

誰かの舌打ちが暗い駅のホームに落とされた。電車は人身事故で遅れるらしい。電光掲示板に映されたその文字を目にするたび、私は生きるってなんだろうと、考える。

岩手県の沿岸、リアス式の岩々に波はぶつかり、しぶきとなってまた戻る。こんな穏やかな海が猛威をふるったあの日を、ふとした時に思い出すのだ。町を半分飲み込んだその瞬間、小五の私は見つめることしかできなかった。たくさんの方々が犠牲になった。「生かされた」と皆が口にした。あれからもう五年が経つ。私たちは「生かされた」ままでいいのだろうか。

毎日ご飯を食べる、眠りにつく。そんな事が当たり前じゃないと知った。今は、「生きたい」からそれを繰り返す。受け身ではない、自分の意志がうまれている。「生かされた」あの時、私はずっと「生きたい」と感じていたのだと気がついた。

「生きたい」がいつしか「死にたい」に変わって身を投げていった少年少女に、誰かが一つ舌打ちをした。私はその「誰か」になってしまふのだろうか。いや、私は、「生きよう」という言葉をもって見知らぬ誰かの命をつなぎとめたい。五年前に私が感じた気持ち、誰かに分かってほしいのだ。